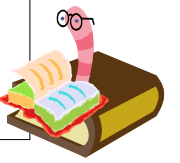


図書館だより

2022年11月号
愛知みずほ大学
愛知みずほ短期大学
瀬木学園図書館



日が暮れるのも早くなり、秋が深まってきました。秋の夜長には、読書がいいですね。みなさんは何を读みますか。

多読賞 中間発表

大学生

1位	**	**	さん	87冊
2位	**	**	さん	63冊
3位	**	**	さん	59冊
4位	**	**	**さん	45冊
5位	**	**	さん	41冊

短大生

1位	**	**	さん	93冊
2位	**	**	さん	73冊
3位	**	**	さん	70冊
4位	**	*	さん	29冊
5位	**	**	さん	23冊

年間40冊以上の本を借りた人を多読賞として表彰します。副賞もあります。惜しくもランキングを逃した学生がたくさんいました。今からでも、40冊に間に合います！頑張ってください。

新しい雑誌



分館の雑誌コーナーに、ファッション雑誌『CanCam』が新しく仲間入りしました！
(『with』は休刊になりました。)

他に雑誌のリクエストがあれば、気軽に図書館員まで。

図書館イベント情報

12月に雑誌のバックナンバーと付録をプレゼントします。詳細はポスターやActivePortalなどでお知らせします。クリスマスツリーも飾ります。お楽しみに！



本の虫コラム

どうして「読書の秋」っていうの？

「読書の秋」の由来は漢詩なんだ。時代はさかのぼること唐の時代。韓愈(かんゆ)の「符読書城南(ふしょをじょうなんによむ)」の詩の中に、「燈火稍親しむべく(とうかようやくしたしむべく)」という一節があるんだ。「涼しく長い秋の夜は、燈火の下で読書をするのに適している」って意味。ここから「秋の夜長＝読書」のイメージになったんだ。日本では江戸時代から使われていたけど、世間に広まったのは、夏目漱石の『三四郎』で引用されてからなんだよ。

